

多機能静穏域磯根資源調査（養殖試験）

（要 約）

山田 嘉暢・桐原 慎二

目 的

深浦町北金ヶ沢地先には、離岸堤が設置され、その陸側が静穏域となっている。静穏域の活用推進を図るため、食用海藻の養殖技術開発を試みた。

材料および方法

1 アオワカメ

平成17年7月に大間町奥戸で採取した成熟個体を母藻に用いて採苗した。平成17年11月22日に葉長5mmの種苗を長さ3mノレンに20cm間隔で挟み込んで水深1.5-4.5mに沖出し、養殖を開始した。また平成18年7月に佐井村地先で採取したアオワカメ藻体を用いて人工採苗するため、所内の飼育実験棟で、ろ過海水をかけ流して成熟を促進させた。

2 ツルアラメ

平成17年1月6日に北金ヶ沢漁港付近から採取した藻体を葉状部が1枚になるよう匍匐枝を切断した後、1.5m、2.0m、3.0mノレン各々20本に20cm間隔で挟み込み、水深1.5mに設置した養殖施設の幹綱に2m間隔でノレンを結着し、養成を開始した。

結果および考察

1 アオワカメ

平成17年11月に沖出しした種苗は沖出し2ヶ月後の平成18年1月には葉長約10cm、3ヶ月後の2月には葉長約100cmに生長していたが、種糸1ヶ所に生育する藻体は1-3個体であった。3月に大型藻体（葉長約70-100cm）を湿重量で約5kg収穫した。収穫したアオワカメは深浦町の事業で地元の小中学生の校外学習用教材として利用された。

4月以降、低気圧の影響を受けて、藻体の流失が進んだ。

2 ツルアラメ

沖出し後の種苗は、匍匐枝から新たな藻体が発出し、6月には葉長が30-50cmに生長した。9月には養殖施設のノレン部分に、ムラサキイガイ等が付着し、藻体には他の海藻が付着して、葉の先端が枯れたため、10月26日には、すべてのノレンを回収し、葉状部が1枚になるよう7-15cmの長さに切断して3mノレン30本に挟み込み沖出しした。平成19年2月には、匍匐枝の伸長が見られたため、今後も試験を継続し3-5月には収穫する予定である。

発表誌：平成18年度青森県水産基盤整備事業多機能静穏域関連調査（養殖試験）報告書。青森県水産総合研究センター増養殖研究所，平成19年3月。